

進む教育改革

文科省プログラム 採択校にみる

◇28◇

技術職員を設置

大阪電気通信大学（大阪府寝屋川市）は企業を退職した熟練技術者を実験・実習時のサポートに活用している。実体験が不足した学生に対し実習実験を通じてモノづくりの喜びや意欲を喚起する狙い。大学が熟練技術者を公募し嘱託技術職員として採用している。この取り組みは「企業熟練技術者を活用した産学連携工学教育」として07年度の

「特色ある大学教育支援プログラム（特色G.P.）」に採択された。学生をサポートする熟練技術者は60歳前後。企業現場で回路や測定器の製作・取り扱いに習熟した人や、旋盤などの機械加工の経験が豊富で機械技能士の資格保持者らだ。

教育に意欲的

同大は熟練技術者を20

企業熟練技術者を活用した産学連携工学教育

大阪電気通信大学

豊富な経験 学生に伝授

モノづくりの喜び・意欲喚起

00年から嘱託技術職員として採用している。基本は週4日、実働34時間勤務が数年間継続的に可能なことを条件としている。現在、嘱託技術職員は17人で、特
学生の教育に関心があり意欲的な人が多いという。今回の特色G.P.採択で関心が高まり、今後、応募者も増えるのではないかと期待している。嘱託技術職員は習熟度の異なる学生に見合った個別指導を行い、作品完成までをサポートする。

色G.P.採択により5人程度増員する予定だ。嘱託技術職員は企業在職中に工場長や技師長、生産管理部門、社内研修担当などの経験者が多い。加えて

実学が生きる

工業高校では実習経験もあるが、高校の普通科の場合モノづくりの実習がない。このため実験や実習の際には教員、大学院生が務めるティーチングアシスタント（TA）以外に学生を



経験豊かな熟練技術者による実習

サポートする人材が欠かせない。また、機械系専門実験では、旋盤加工やNCフライス加工などの実習で、嘱託技術者は安全指導と加工技術のレベルの高さを示せる。「教員は理論的な話ができる。ただ機械系となる

託技術職員がサポートする体制を取っている。今後は各学科のカリキュラムに、熟練技術者のアイデア、経験である実学を、いかに取り込み学生に伝えられるかが課題になる。
（大阪編集委員・水田武詞）